低炭素

日常生活や経済活動, まちづくりにおいて, 気候に悪影響を及ぼさない水準に大気中の温室効果ガス濃度を低減させると同時に, 気候変動の影響にも対応し, 安全で豊かな生活を実感できる社会

循環利用

資源採取、生産、流通、消費、廃棄などの社会経済活動の全段階を通じた資源の循環利用や廃棄物等の発生抑制などの取り組みにより、地域資源が都市や農村などの地域内・地域間において持続的に循環する社会

調和と共生

安全で安心な生活環境が確保されるとともに、生物多様性が適切に保たれ、自然の恵みを将来にわたって享受できる、人と自然と経済活動が調和し、共生する社会

.......

推進基盤

環境学習、環境イベントなどにより、市民や事業者の環境意識がさらに醸成され、環境保全活動への参加や主体・地域間の連携が強化されている社会

生活(くらし、事業活動)

- 〇子どもからお年寄りまで<mark>誰もが</mark>自由に<mark>エコ</mark>でスマートに移動できるようになり、人と人との交流が活発になっている。
- 〇太陽光発電や蓄電池、HEMS、EV・FCVなどの次世代自動車を活用した住宅が増加し、エネルギーを自給自足した災害にも強い住宅がスタンダードとなり、無理なく安全で安心したエコな暮らしが広がっている。
- 〇水素ステーションなど新たな環境ビジネスの成長により、雇用の創出が図られている。
- 〇地域ごとの特性・特色に応じて、ものやエネルギーの循環利用やシェアが 活発化したことで、様々なものを所有しなくても便利で豊かな暮らし ができる ようになっている。

- 〇都市部と農村山部の各機能やエネルギーの相互利用により, 新たな人・もののサイクルが活発化している。
- 〇バイオマス等の地域資源を活用した再生可能ネルギーの導入により農村 部等の雇用が創出されている。
- ○豊かな<u>自然の恵みの享受</u>により、<mark>健康的な</mark>ライフスタイルが浸透し、健康で <mark>快適な暮らしを楽しむ</mark>人が増えている。
- 〇里山などで小鳥や昆虫が多く見られるようになったことにより, 憩いの場や 学びの場, 子どもたちの遊び場として活用されている。
- ○自然資源を活用したエコツーリズム関連ビジネスなどにより, 雇用が創出されている。
- ○企業や NPO, 地域による自然共生型の活動が活発となり, 身近にところで 豊かな自然を感じることのできる暮らしが市内各所で可能となっている。
- ○企業や NPO, 住民参加など市民協働による自然環境保全・創造活動が盛んになり、それらを通じて市民主体のコミュニティが再生されている。
- 〇地域固有の自然等に根ざした食材や伝統料理,季節ごとの伝統行事・伝統 文化が再認識されるなど,<mark>自然の恵み</mark>や地域固有の特性を活かした地域 の活性化が進んでいる。
- 〇人やモノ, まちを大切にする<mark>「もったいない」の精神</mark>が市民に根付き, 環境 配慮行動が当たり前の行動として定着している。

空間

- 〇拠点間を結ぶ公共交通体系が構築され、EV·FCV や小型モビリティを上手に活用した、誰もが安心して移動できる空間が整備されている。
- ○拠点には病院やスーパーの他,文化施設などが集約され,徒歩や自転車でも,<mark>多くのことができる便利な空間</mark>となっている。
- 〇都市拠点や地域拠点の周辺部分では、自然が再生され、拠点形成による インフラの再編に合わせ、低炭素化、防災対策が促進された都市空間が 形成されている
- ○3R等に対する市民意識の成熟により、ポイ捨てや不法投棄等のない都市空間が維持されている。
- ○<mark>コンパクトシティ</mark>化が進んだことで地域の持つ特徴・資源が見直されたことで、都市部と農村部の役割が明確になり、各地域において新たな循環のサイクルフレームが構築されている。
- 〇水と緑に配慮した都市部や耕作放棄地を有効活用した農村部など、<mark>各拠 点の特性に合わせ自然を上手に取り入れた快適な空間</mark>が形成されてい る。
- 〇コンパクト化の推進によって空き家が減少し景観や安全性への悪影響が解消されるほか、森林や里山など適正に管理され、安心·安全な空間が形成されている。
- ○環境負荷低減策が機能し、水大気環境の改善や温室効果ガスの削減が 進むとともに、生態系の有する防災・減災機能が上手に活用されること で、市民が安心して生活できる環境が確保されている。
- ○<mark>コンパクトシティ</mark>化により、都市機能が集約化されたことによって新たな空間が生まれ、その空間で自然が再生されている。

社会システム(制度、仕組み)

- ○低炭素分野を始めとした環境投資が進み、水素ステーションなど新たな環境ビジネスが、成長分野として経済を牽引し、エネルギーの地産地消に加え、余剰エネルギーや環境価値・環境ブランド等を販売することで、地域内の経済循環が拡大・活性化している。
- 〇公共交通の階層化によるネットワーク化, 自転車道の整備, 結節点整備など公共交通の利便性が向上する仕組みが構築され, 低炭素型モビリティの導入が徹底的に推進されている。
- OHEMSなど、ICTを活用した様々なサービスが確立され、人々の暮らしを支援するシステムが構築されている。
- ○<mark>自然,物質,人材,資金等が都市部,農村部を循環する枠組みとし</mark> て,シェアリングやリデュース(減量化)リユース(再利用)したりする仕 組みが推進されている。
- 〇利用しやすいごみごみ集積方法や収集,リサイクルの制度が構築され、 <mark>誰もが当たり前の行動として3Rに参画することができる</mark>仕組みが 推進されている。
- ○バイオマスなどの貴重な<mark>地域資源を活用</mark>したり、<u>新たな<mark>経済活動が成</u> 立</mark>している。</u>

- 〇森林, 農地, 里山などが, 地域住民により適正に維持, 管理する仕組 みができている。
- 〇回復した生態系を活用することで、環境への負荷ができるだけ少なくなる 循環を基調とする社会システムができている
- 〇生態系を将来にわたって享受できる<u>自然共生型の考え方を取り入れ</u> <u>た経済活動等</u>が推進されている。
- ○様々な機会を通じて環境問題について学習することができ,<mark>市民が主</mark> 体的に様々な環境活動に参加している。

宇都宮市の特徴

なんでもできる"好立地型とかいなか"

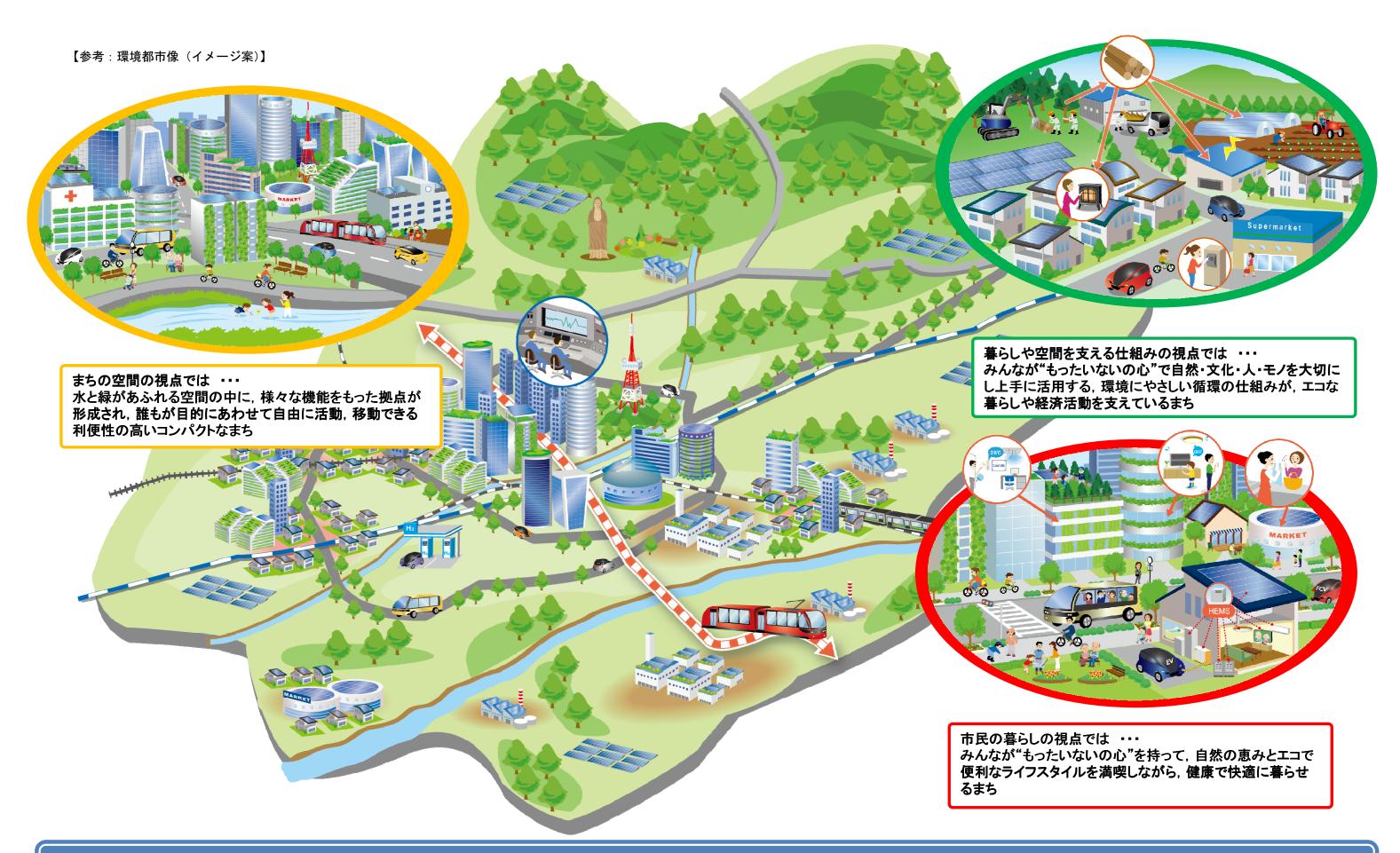
ネットワーク型コンパクトシティによるまちづくり

もったいない運動

本市が目指す 環境都市の姿

もったいないの心で環境への負荷を抑えながら、うるおいのある地域の中で、心豊かに健康で充実した暮らしを享受できるまち

- まちの空間の視点では ····・・・・・・・・ 水と緑があふれる空間の中に、様々な機能をもった拠点が形成され、誰もが目的にあわせて自由に活動、移動できる利便性の高いコンパクトなまち
- 暮らしや空間を支える仕組みの視点では ・・・ みんなが"もったいないの心"で自然・文化・人・モノを大切にし上手に活用する,環境にやさしい循環の仕組みが,エコな暮らしや経済活動を支えているまち



本市が目指す 環境都市の姿

もったいないの心で環境への負荷を抑えながら、うるおいのある地域の中で、心豊かに健康で充実した暮らしを享受できるまち